

## 令和3年度 大阪府食育推進計画評価審議会（概要）

- 日時：令和4年3月22日（火）15時00分～16時50分
- 場所：国民會館 武藤記念ホール 小ホール
- 出席委員：池上委員、伊藤委員、大川委員、木山委員、久保委員、中井委員、  
南野委員、春木委員、藤原委員、水野委員、三宅委員、森委員 12名（50音順）

1 会長の選出 委員の互選により、藤原委員が会長となる

2 議 題

（1）第3次大阪府食育推進計画の中間報告について

→ 第3次大阪府食育推進計画中間点検報告書については案のとおり承認

【委員意見】

- ・前提として、コロナ禍で食がどうなっているかを見直す必要がある。これまでは食べ方を含めた食育を行ってきたが、それが崩れつつある。
- ・食料安全保障の4項目である、「食料の量」「（経済的に）入手できるか」「栄養は十分か」「安定して入手できるか」、特に「食料の量」が問われている。
- ・原油価格が高騰し、量が確保しにくい状態。輸入に頼っているため、セーフティーネットを踏まえた食育を考える必要がある。
- ・D評価の郷土料理等の項目について、HPやSNSを利用しているが、若者はHPやFacebookは見ない。使うSNSを考える必要がある。（TikTokやTwitterなどはどうか）
- ・D評価の郷土料理等の項目について、以前食改が行っていた学校でのみそ汁提供等の取り組みを行うとよいのではないか。子どもに普及することで親につながり、食育を広く普及できる。大阪産（もん）を使うことで地場産の普及につながる。
- ・共食が推奨される一方で、少人数で黙食を行う必要があり、企業でも孤食につながっている。飲食店に行っていた人がコンビニに流れ、野菜を食べていない。
- ・みんなが総力を挙げる必要がある。今は継続することが難しいかもしれないが、食育の取組はつなげていく必要がある。現状を打破するには、知恵を持ち出す必要がある。
- ・朝食について、我が家では彩りなどを気にかけてカフェっぽくしている。そうすると、子どもたちは楽しそうに食べる。
- ・たん白質やビタミン摂取を心がけているが、食事から取り入れることは難しい。そのため、我が家ではサプリを用いてビタミンをとっている。
- ・食事を出すときには「春キャベツは柔らかくておいしいよ」などひと言添えるようにしている。
- ・D評価の郷土料理等の項目について、家庭では難しい時代である。学校や、学校を中心とした地域の協力を得て普及するとよいのではないか。
- ・C評価の共食について、テレワークが増えているため、共食が増加傾向にあると思っていたが、大きな改善は見られず残念な結果であった。
- ・組合員の高齢化や都市農業の減少が進んでいる。
- ・直売所で安く安心安全な食材を提供しているが、野菜摂取量は増えない。学校などで大阪の農産物のPRをしている。コロナ禍でイベント等は難しいが、これからも進めていく。
- ・「楽しいおいしい給食を食べよう」と子どもたちに言っているが、黙食しているのが現状。コロナ禍で食の在り方が変わった。子どもや保護者にどのようにして食の大切さを伝えていけばよいのか。
- ・物流について、そばは日本で作られていると思っていたが、ウクライナから輸入している。地産地消といわれているが、日本だけでは限られる。
- ・価格の高騰により若い親たちは、「食材が高いから」という理由でコンビニに頼っている。
- ・家族での食事の中でもおしゃべりしてはいけないという意識がある。食育に影響しているのではないか。

- ・保育士会で簡単にできる料理レシピを作成中である。
- ・家庭内の共食について、母親の負担が大きい。若い男性向けの料理教室等を開催し、父親が料理できるようにすればよいのではないかな。

## (2) 第3次大阪府食育推進計画の進捗状況について

→第3次大阪府食育推進計画 令和3年度 PDCA 進捗管理票については案のとおり承認

### 【委員意見】

- ・手広く食に関する実態把握ができていて感心した。ただ、年代別にどうなっているのかが気になる。青年期から成人期が危険なステージである。簡単に食事をすまし、他にお金を使うからである。
- ・大学に進学するあたりきちんとした食生活を身に着ける必要がある。青年期から成人期をターゲットに取り組みを増やすとよいのではないかな。
- ・市民も食に関心を持っている。以前に比べると食に関する意識が高まっている。
- ・食の取り組みが定着しているため、良い形で市民に広まっている。
- ・食品ロスの取り組みとして農水省主導で3分の1ルールを見直している。少しでも何らかの形で食べていただけるように取り組んでいる。
- ・資料2「第3次大阪府食育推進計画 令和3年度 PDCA 進捗管理票（案）」のP1「1 健康的な食生活の実践と食に関する理解の促進」（1）健康的な食生活の実践と促進の【取り組み目標】1「栄養バランスの取れた～」の数値について、H28とR2の数値が大幅に上昇している。これは多様な取り組みの功を奏した結果であるのか。アンケート方法が変わったのか。事務局はどのようにとらえているのか。

### 【事務局】

- ・数値のとり方（質問・集計方法）に変更はない。アンケートであるため対象者はことなる。府民への取り組みが普及してきた影響もあるのではないかと考える。

## (3) 食生活についてのアンケート結果（速報）について

- ・野菜の摂取について、食卓には野菜よりお肉を並べた方がごちそうに見える。野菜よりお肉の方が安い。野菜を安い時に購入し、冷凍して保存しておくといい。野菜の活用方法について周知すべきである。
- ・コロナの影響で出かける機会が減り、簡単な食事で済ませている。伝える機会が欲しいと思っている。
- ・野菜だけではご飯を食べることが出来ない。
- ・地場野菜の販売を行っているが、最近は若い人も地場産を買いに来ている。対面であれば「この野菜が旬です」「こう食べるとおいしいです」と伝えることが出来るが、その機会も減っている。
- ・先週から料理教室を再開し、30代・40代の男性が来るようになった。コロナ禍で働き方が変わったからでないかと思う。これは消費者問題を考えてもらうチャンスではないかと思っている。

## (4) その他

- ・YouTubeで若いパパが料理する3分程度の動画を投稿するものがある。こういったものが良いのではないかな。
- ・朝食について、男性の4割が自分で準備するということについて新しい傾向であると思った。
- ・野菜は高くないが「野菜は高い」という印象が刷り込まれているため、直売所等の農家から買う仕組みや場所を作るべきである。
- ・野菜の摂取について、女子学生は野菜をとっていると答えているが、現実にはファイバー（ドリンク等）になっている。
- ・アンケートは健康に関心が高い人が回答している。（健康に対する意識が低い人はアンケートに回答しないのではないかな。）関心のない人にアプローチする必要がある。
- ・野菜などの保存方法を伝える必要がある。
- ・これからは企業との連携が重要である。タイアップをして、アスマイルを使って宣伝・アピールしていくのがよい。
- ・企業と啓発し、調理方法と一緒に発信していくとよい。
- ・健康食品・機能性表示食品をどれくらい使っているのかが気になる。